

平成29年度 決算審査

県議会決算特別委員会が10月2日から12日まで行われ、千田美津子議員は、県民のいのちのちくらしを守る立場から各部・局に対して、次のような質疑を行いました。

通学路の歩道整備⇒4年間で9km程度では、今後117年間もかかる



〔教育委員会〕（高校再編）

岩谷堂高校の1学級減は、関係者に十分に説明された上での決定か？

子どもたちの生命を守るため 通学路の歩道、信号機の設置を優先すべき

〔県土整備部〕 子どもたちの安全のためにも、通学路の歩道整備はテナを上げて進めるべき

千田議員は、通学路（小学校）

千田議員は、岩谷堂高校は今年創立100周年を迎えるが、その節目の時に、突如1学級減が打ち出された事に大変驚いている。学校再編に関わる管理運営規則には生徒数の減少により学級減がありうる事も記載されているが、ここに至るまで地元等への説明は充分に行われたのかと質問。これに対し、担当課長等は、「平成28年3月に策定した再編計画の中でも示しており、再編計画を公表する前にも地域検討会議などを開催し、同校や奥州市との間でも意見交換を重ねてきた」等と述べました。千田議員は、総合学科を今後どういう方向に持っていくべきか等様々検討されるべきであり、系列の見直しもこれで良いのか疑問だと述べました。



高校再編問題で懇談する共産党議員団



黒石町長田地内の歩道設置を要望

千田議員は、歩道整備について、県当局はほぼ計画通りに進んでいるとしているが、そのテンポは4年間で9kmに止まっており、このままでは県内すべての整備を終えるのに、今後117年も掛かってしまうことからこのテンポを引き上げ通学路の歩道整備を進める必要があるのではないかという質問。これに対し、担当課長は、「すべての通学路に歩道を整備することが理想ではあるが、予算や用地上の制約などがあり、整備完了までには一定の時間を要する。歩道整備以外のハード整備、安全ポールの設置やカラー舗装など、ソフト対策との両面から取り組んでいる」と述べるとに止まりました。

〔警察本部〕 県民の命を守るための信号機設置率が30%台に止まっているのは、重大問題だ。千田議員は、県内の信号機設置



期待される六原の農業大学校

千田議員は、金ヶ崎町にある農業大学校を農業関係の大学にして欲しいという声がある。これは、岩手の農業を発展させるために生産・販売・加工などを先導する人材育成のためであり、若い人たちにとても大学校を魅力化する必要があるのではないかという質問。これに対し、担当課長は、「県の農業大学校は、地域農業のリーダーとなる農業経営者の養成を目的に設置し、27年度から29年度の3年間の卒業生154人の進路は、105人・68%が就農や農業団体農業関連企業に就職し、本県農業の振興に大いに貢献している。国立の農業系大学への編入が可能となり、これまでに19人が編入した」専門職大学となる場合は、農作業技術の習得に時間を割かれるため、現代農業に不可欠な経営のための学習時間の確保などに難点があることなどから、学生等のニーズを踏まえながらメリット、デメリット等十分に検証しながら検討して行きたい」と述べました。



〔農林水産部〕

岩手の農業を先導する人材育成のために農業大学の専門職大学化を検討すべき

千田議員は、金ヶ崎町にある農業大学校を農業関係の大学に

〔商工労働観光部〕 有期雇用の労働者が無期転換ルール先取りで雇止め被害に合わないよう



雇用について懇談する千田県議等

千田議員は、雇用における無期転換ルールについて質問。今年の4月から、通算5年を超えた有期雇用の労働者が、期間の定めのない労働契約へ申し込みをした場合に、事業主はこれを承諾したものとみなされ、無期労働契約に転換されることになった。しかし、これを回避するために、全国では雇止めが多発しているが、岩手県内ではどのような状況かと質問。担当課長は、「このルールに対応するため、今年2月から相談窓口、相談ダイヤルを開設しているが、労働局からは雇止めについての相談は極めて少ないとのことであり、県においても就業支援員や労働委員会でも相談に応じているが、無期転換ルールに関する相談はなかった」と述べました。千田議員は、特にも被災地における有期雇用の労働者がルールを先取りしての雇止めが行われる事がないように、取り組んでほしいと要望しました。



農業の地域振興